

御津の「みどり」と「清流」を守る会

「宇甘川流域生き物調査プロジェクト」

1.事業紹介

①.河川生物調査を実施

2010年10月30日大野川調査(午前)、宇甘川調査(午後)、参加者70名。

②.猛禽類調査を実施

2011年1月26日第1回講習会、参加者24名。2月12日第2回講習会、参加者18名。19日第1回定点観測、調査員23名。26日第2回定点観測、調査員22名。3月5日定点観測まとめ会、参加者15名。12日オオタカ営巣集中調査1、調査員16名。13日オオタカ営巣集中調査2、調査員10名。26日オオタカ営巣集中調査3、調査員14名。オオタカ営巣集中調査は記載した日程以外にも、少数・個人で随時行いました。

各調査終了時にはミーティングを行い、次回の調査ポイントなどを打ち合わせしました。

2.この活動によって達成された成果

地域住民と専門家が共同で調査を行うことで、お互いの持つ情報と知識が繋がりを見せ、良い成果を残せたと思います。成果が出ることにより、地域全体に野生動植物、自然環境に対する興味が広まりました。

①.河川生物調査

地区住民の「谷川で、川にいるドジョウとは違うもの昔見たことがある」との話から、NPO岡山淡水魚研究会が追加調査を実施したところ、大野川支流部でナガレホトケドジョウ(絶滅危惧IB類EN)を確認しました。



ナガレホトケドジョウ
(絶滅危惧1B類)

②.猛禽類調査

猛禽類についての知識がなかった者が、専門家からの講習や指導をうけることで、猛禽類への興味も増し、猛禽類の種類の判別がある程度行えるようになり、調査方法についても理解することができました。

2回行った定点観測では、オオタカ(絶滅危惧II類VU)、クマタカ(絶滅危惧IB類EN)、ハイタカ(準絶滅危惧NT)、ノスリを確認し、オオタカ、クマタカについては、複数のポイントで行動が繋がり、利用域の特定がある程度行えました。

また、地域の地形を再確認することもできました。

調査を行った地域では、以前にオオタカの営巣が確認されています。今回の調査結果からみて、営巣の可能性が非常に高いことから、産卵に向けて警戒が強まるまでの期間、オオタカ営巣集中調査を行うこととなります。

営巣集中調査を3回行いましたが、成果を上げることはできませんでした。今後も継続して営巣調査を実施しますが、オオタカの警戒が強まる時期になるので、少人数での調査を主体に行っていく予定にしています。

猛禽類調査を実施中には、猛禽類以外の鳥類に度々出会うことのできることから、鳥類全体についての知識を深める必要性を感じました。

また、猛禽類調査は広いエリアを対象に行うため、地域の特徴ある地点で新たな発見を行うことがあります。今回の猛禽類調査では、地域ため池でイチョウウキゴケ(絶滅危惧I類)を岡山野生生物調査会が確認することに繋がりました。

